

霧島総局・桐野秀吾

記者の目

霧島市霧島地区に大規模な養豚場を建設する計画が浮上した。予定地はJR霧島神宮駅に近い自然に囲まれた土地。

周辺を車で走ると、「建設反対」を訴える看板の多さが目に付くようになってきた。市が業者と住民の間に入る形で開いた説明会にも「絶対反対」と書いた、はちまきを締めた人の姿があった。

説明会で、住民は「環境を壊さないで」「空気のきれいな場所に、においが発生するものを造らないで」などの声を上げた。業者は対策を取るとした上で、次世代の畜産業者育成、地元を中心にした300人の雇用などメリットを強調した。

両者のやり取りを聞いていて、議論がどこか、

冷静な議論を

かみあっていないと感じた。

感情として、自然豊かな土地に、計画通りであれば県内最大とされる養豚場を造ってほしくない、というのは理解できる。だが、感情だけで反対を訴えることには限界があるのではないか。

だからこそ、環境影響評価(アセスメント)の方法に疑問を投げかける住民の発言は目を引いた。アセス自体、なじみが薄く、業者は簡単な例を示すなど、もっと丁寧な説明をした方がよいのではないかと感じた。

計画通りに進んだとしても、着工まではまだ時間がある。どういう結果になるにせよ、お互いに冷静で、丁寧な議論をすることが必要だ。